

## 令和6年度 教育研究等に係るデータ分析による自己点検・評価に関する報告書

自己点検・評価責任者  
企画・評価室長 君塚 剛

「自己評価」とは自己点検・評価実施主体による自己点検・評価結果であり、「確認結果」とは自己点検・評価責任者による「自己評価」の確認結果である。

○：当該分析項目を満たしている。  
 △：当該分析項目を満たしていないが、当該年度中に改善が見込める。  
 ×：当該分析項目を満たしておらず、その改善対応が次年度以降も必要である。  
 -：該当なし

### 【教育課程】

通し番号	分析項目内容	分析の手順・判断指針	評価実施主体	自己評価	確認結果	改善を要する事項
1	全授業科目において、必須項目の全てが入力され学内外に公開されているか	・シラバスに、授業名、担当教員名、授業の目的・到達目標、授業形態、各回の授業内容、成績評価方法、成績評価基準、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等が記載されており、学生が各授業科目の準備学習等を進めるための基本となるものとして、全科目、全項目について記入されていることを確認する。 ・すべてのシラバスが、学生に対して、履修便覧等の配布・ウェブサイトへの掲載等の方法により周知を図っていることを確認する。	教育推進室	△	△	シラバスの記載内容が十分でない授業が散見される
			美術学部・研究科	△		
			音楽学部・研究科	△		
			映像研究科	△		
			国際芸術創造研究科	○		
2	授業時間割、学事暦と整合がとれているか	シラバス及び履修便覧等を用いて、以下事項について分析する。 ・1年間の授業を行う期間が、定期試験等の期間を含め、35週確保されていることを確認する。 ・各授業科目が、大学が定める授業期間を単位として行われていることを確認する。	教育推進室	○	○	
			美術学部・研究科	○		
			音楽学部・研究科	○		
			映像研究科	○		
			国際芸術創造研究科	○		
3	授業内容、方法等が適正な水準を保っているか	授業評価アンケート及び学習と学生生活アンケート等を用いて以下事項について分析する。 ・一単位の授業科目を45時間の学習を必要とする内容をもって構成する原則を踏まえ、科目の内容が設定されていることを確認する。 ・大学院課程においては、学位論文（特定の課題についての研究の成果を含む。）の作成等に係る指導体制を整備し、それに基づく指導が実施（研究倫理に関する教育・指導を含む。）されていることを確認する。	教育推進室	○	○	
			美術学部・研究科	○		
			音楽学部・研究科	△		
			映像研究科	○		
			国際芸術創造研究科	○		

【学生支援】

通し 番号	分析項目内容	分析の手順・判断指針	評価実施主体	自己 評価	確認 結果	改善を要する事項
1	教育環境、学生支援が適正な水準を保っているか	学習と学生生活アンケート及び卒業・修了時満足度調査等を用いて、学生のニーズに応え得る履修指導及び学習相談の体制を組織として整備し、指導、助言が行われていることを確認する。	学生支援室	○	○	
2	学位授与方針に則した学修成果が得られているか	・学習と学生生活アンケートの結果等から判断して、学習成果を確認する。 ・卒業・修了時満足度調査等の結果を踏まえて、学習成果を確認する。	学生支援室	○	○	
3	就職状況	卒業・修了後の進路状況調査を用いて以下事項について分析する。 ・就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して妥当なものであること等を確認する。 ・就職先、進学先の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して妥当	学生支援室	○	○	
4	外国人留学生数	・前年度実績値と過去5年間の平均値を比較し、提供された機会を利用して、外国人留学生が本学で学習していることを確認する。 ・学習と学生生活アンケートの結果等を用いて、留学生への支援等を行う体制を整備し、必要に応じて支援等を行っていることを確認する。	学生支援室	○	○	
5	海外派遣学生数	・前年度の実績値と過去5年間の平均値を比較し、提供された機会を利用して、正規学生が海外で学習していることを確認する。 ・学習と学生生活アンケートの結果等を用いて、留学希望者への支援等を行う体制を整備し、必要に応じて支援等を行っていることを確認する。	学生支援室	○	○	

【学生受入】

通し 番号	分析項目内容		評価実施主体	自己 評価	確認 結果	改善を要する事項
1	志願者数及び受験者数	学生募集を行う組織単位ごとの過去5年間の入学定員に対する実入学者の割合の平均を確認する。	教育推進室	○	×	音楽研究科作曲専攻、指揮専攻、音楽専攻（博士）において、入学定員に対して実入学者が大幅に下回る状況になっている。自己点検にはないが、美術研究科文化財保存学専攻（博士）も同様である。
			美術学部・研究科	○		
			音楽学部・研究科	×		
			映像研究科	○		
			国際芸術創造研究科	○		
2	学生の受入が適切に実施されているか	前年度実績値及び学部合格者アンケート等を用いて以下事項について分析する。 ・学士課程、大学院課程ともに入試の種類ごとに、入学者選抜の方法（学力検査、面接等）が入学者選抜の基本方針に適合していることを確認する。 ・入試に関する研究委員会等、検証するための組織や具体的な取組等（改善のための情報収集等の取組を含む。）の状況を確認する。	教育推進室	○	○	
			美術学部・研究科	○		
			音楽学部・研究科	○		
			映像研究科	○		
			国際芸術創造研究科	○		